

読者ひろば

熊本地震

解体ではなく
地震の記憶に

高谷和生 61

市民グループ

事務局長(玉名市)

熊本地震から2カ月がたち、熊日連載「連鎖の衝撃」では、2度の激震で何が起きたのか、そして被災地域の復興に向けて、突きつけられた課題は何か分野ごとに整理されていた。

文化財編には、修復・保全へ向け熊本城から未指定文化財にいたるまで、被災状況調査が急務と記されている。地震以

降、県内戦争遺跡の正確な被災状況を調査している市民グループとして全く同感である。地震前から保存運動が行われていた熊本市役所花畑別館の様子になった。建物玄関前には市から「倒壊の危険あり」の警告看板が出されている。

一方では、震災後の市民グループの外観調査で、窓枠落下や増築4階外壁に亀裂は確認されたものの、他の階には目立った被害はないという。同様のことは阪神淡路大震災で、神戸市内の耐震構造が不十分な建物群が

倒壊し、近代建築物が残った事情にも通ずる。花畑別館は人通りの多い街中の建物だ。本当に危険か否か、熊本市は専門委員による内部調査を公開して行っべきだ。

熊本のシンボルである熊本城は、県民の心のよ

りどころとして、修復を公開し、観光にも生かしながら、その雄姿を取り戻してほしい。地域が支えてきた未指定文化財は、公的財源を確保し、道のりは険しいかもしれ

ないが修復を進めていかねばならない。一方で東日本大震災で議論されたように、震災記憶をとどめるため単なる解体撤去ではなく防災メモリアルとしてそのま

ま残すべき地震歴史資料もあるのではなからうか。

被災された方々にはまだつらいかもしれないが、2カ月たち熊本でも少しずつ議論されても良いのではなからうか。

「読者ひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投

投稿される方へ

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係
②ファクス 096(363)1268
③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp